

第51回

The 51st Annual Meeting of
Japanese Society for Pediatric Neurogastroenterology

日本小児消化管機能 研究会

プログラム・抄録集

会期

2022年 2月19日(土)

会場

グランシップ (10階:1001)

静岡県静岡市駿区東静岡2丁目3-1

Web会場

会長

漆原 直人

静岡県立こども病院小児外科



第51回

The 51st Annual Meeting of
Japanese Society for Pediatric Neurogastroenterology

日本小児消化管機能研究会

プログラム・抄録集

会期

2022年2月19日^土

会場

グランシップ(10階:1001)

静岡県静岡市駿区東静岡2丁目3-1

Web会場

会長

漆原 直人

静岡県立こども病院小児外科

第51回日本小児消化管機能研究会事務局

静岡県立こども病院 小児外科

担当：三宅 啓

〒420-8660 静岡県静岡市葵区漆山860

TEL 054-247-6251 FAX 054-247-6259

E-mail: ch-surgery@i.shizuoka-pho.jp

ご 挨 拶

第51回日本小児消化管機能研究会 開催にあたって

第51回日本小児消化管機能研究会

会長 漆原 直人 静岡県立こども病院 小児外科



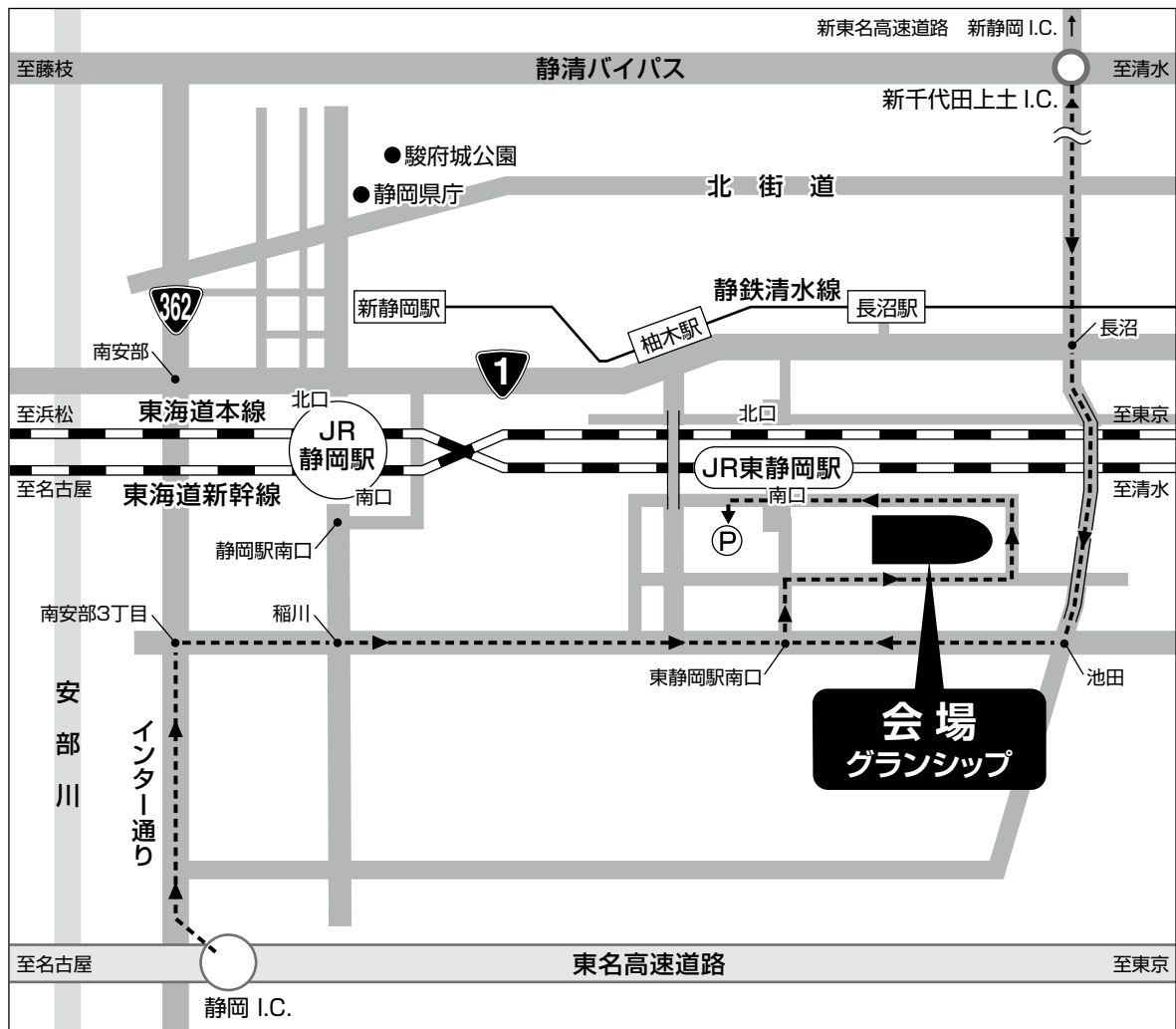
この度、第51回日本小児消化管機能研究会を2022年2月19日(土)に静岡グランシップにて開催することになりました。伝統ある本研究会のお世話をできることを大変光栄に思います。またオミクロン株の急速な蔓延にともない、その対策として3密を避けた広い会場による現地開催とWeb配信のハイブリッドでの開催ができるように致しました。

胃食道逆流症、短腸症候群、ヒルシュスプルング病(類縁疾患)などの消化管機能障害に対する多くの術式が施行され、最近では長期の成績が報告されるようになりました。胃食道逆流症では、食道インピーダンスpHモニタリングが多くの施設で行われるようになり、従来行われていたpHモニター検査に比べ情報量は増えました。しかしどのようなことが明らかになったのか、また多くの方は検査結果の解釈に迷う方も多いのではないかと思います。小児便秘症は外来診察で多い代表的な疾患です。最近ではいくつかの新しい便秘治療薬が発売され治療薬の選択肢が増えましたが、どのように薬を使い分け治療や指導を行うのがいいのか重要な検討課題です。

そこで今回の研究会の主題は1)消化管機能障害に対する手術とその功罪、2)食道インピーダンスpHモニタリングが教えてくれたこと、3)最近の便秘治療としました。また4つのセミナーを企画しました。

Web会場も取り入れることからより広い地域・領域から医療関係者が参加し、例年に増して活発な討論が行われるものと期待しております。是非とも多くの会員の皆様にご参加いただき、活発なご討議を通じて実りある会にさせていただけることを期待しております。

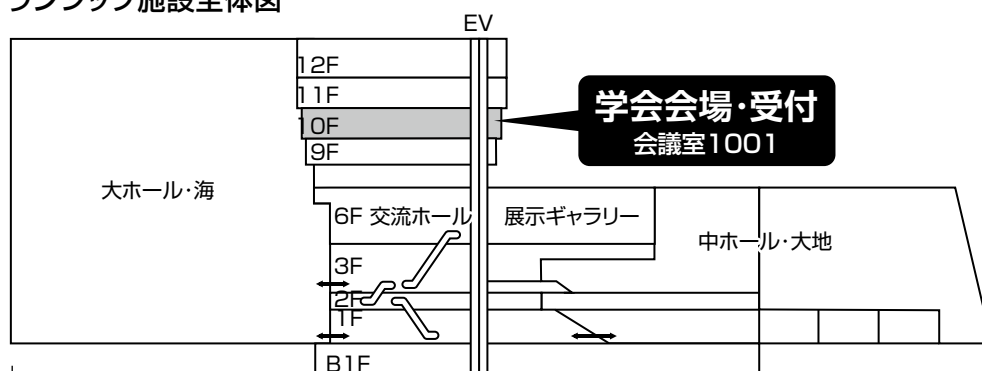
交通アクセス



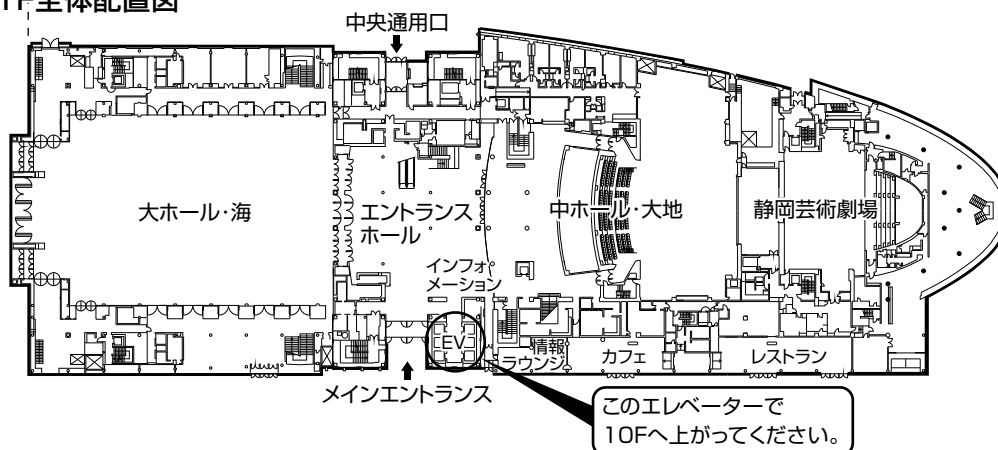
- JR「東静岡駅」南口隣接
- 静鉄清水線「長沼駅」から徒歩10分。
- 東海道新幹線（ひかり）で「東京駅」から1時間、「新大阪駅」から2時間。
JR「静岡駅」で乗り換え、「東静岡駅」まで3分。
- 車では東名高速道路「静岡I.C.」から6km、15分。
新東名高速道路「新静岡I.C.」から9km、15分。
静清バイパス「千代田上土I.C.」から4km、10分。

会場案内図

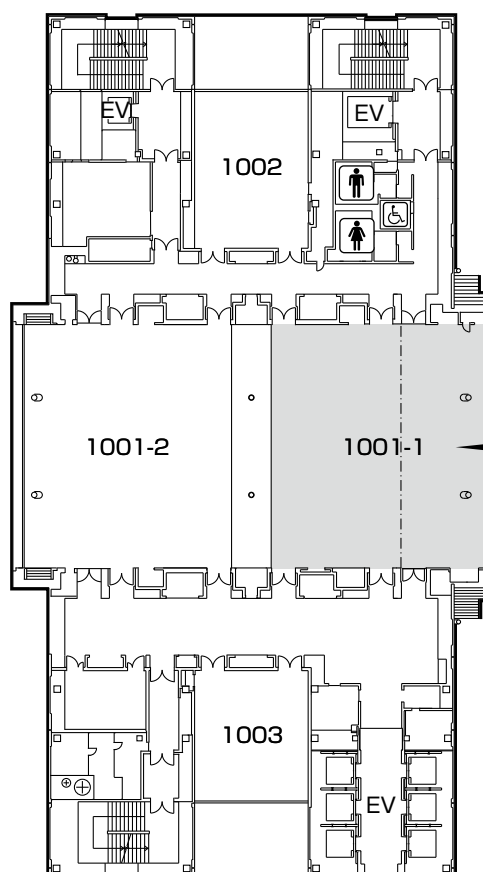
● グランシップ施設全体図



● 1F全体配置図



10F



ご参加の皆様へ

1. 開催様式

本会はコロナオミクロン株の感染急拡大に対応するために現地会場での参加に加えて Web からのオンライン参加も選択できるハイブリッド形式での開始といたします。

会場参加の方

グランシップ 10階会議室1001にお越しください。

〈受付時間〉 8:00開始 参加証をお渡しいたします。

Web 参加の方

事前参加登録をされた方全員に大会運営事務局より Web 学会会場のログインキーをメールにて全員にお送りします。

〈放送開始時間〉 9:00～

尚、会期直前および当日に参加登録をされた方には、カード決済完了メールにてログインキーをお知らせいたします。

※本会では後日のオンデマンド上映は行いませんのでご注意ください。

2. 参加登録について

参加される方は現地参加と Web 参加を問わず、事前の参加登録が必要です。尚、参加者は自由に現地会場での参加または Web 参加を選択できます。

本会ホームページから参加登録をお願いします。会期直前および当日でも参加登録ができます。

参加費のお支払いはクレジット決済のみです。

※対応カードは VISA、マスターカード、アメリカンエクスプレスのみとなります。

※決済後は、いかなる理由においても返金は致しかねますのでご注意ください。

3. コロナ感染対応について

現地開催にあたりコロナ感染対策を行います。ご来場の際には、感染拡大防止にご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、発熱・咳・倦怠感などの症状を有する方は参加をご遠慮ください。

- ・ マスク着用の徹底：ご来場の際には必ずマスクの着用をお願いいたします。会場内では常時マスクを着用し、不要な接触をお避けください。
- ・ こまめな手指消毒：会場前にアルコール消毒液を設置いたします。
- ・ 密とならない対策：会場の席は十分な間隔をとり、密の状態が生じないようにご注意ください。
- ・ マイクの消毒：発表毎にスタッフにて除菌作業を行います。
- ・ 換気：1時間に2回以上、数分間、入口開放による換気を行います。
- ・ 接触感染防止：資料等の手渡し配布は行いません。また各自で筆記用具をご持参ください。
- ・ 非接触確認アプリ (COCOA)：お持ちのスマートフォンにインストールをお願いいたします。

4. プログラム抄録集

施設会員および発表演者と座長にはあらかじめプログラム抄録誌を郵送しております。当日はお忘れの無いようご持参ください。

現地で参加される方には、プログラム抄録誌を会場受付でお渡しいたします。

Web 参加の方は、Web 会場から抄録誌 PDF をダウンロードしてご利用ください。

5. 参加証兼領収書

現地にてご参加の皆様には、会場内では常時参加証の着用をお願いいたします。受付エリアに参加証を入れる名札ケースを準備しておりますので、各自お受け取りの上、ご着用ください。なお、参加証には領収書が付随しております。紛失されますと再発行ができない場合もございますので、ご注意ください。

6. クローク

クロークの設置はございません。

7. 会場内での注意事項

演者の許可無しでの撮影・録画はご遠慮ください。

会場内では携帯電話の電源をオフにするか、マナーモードにさせていただきますようご協力お願いいたします。

施設内および施設周辺は全面禁煙です。

8. 幹事会

日 時：2022年2月18日（金） 17：00～18：00

会 場：グランシップ（10階 1001）と Web 会場

演者の皆様へ

原則として現地発表としますが、Zoom での発表希望される方にも対応いたします。

会場での発表

◆発表データを持参の場合◆

- メディアでの受付は、Windows で作成されたデータのみとなります。
- お持ち込みいただけるメディアは、USB フラッシュメモリーのみとなります。
- 会場にご用意する発表用 PC の OS は Windows10、アプリケーションは PowerPoint2013・2016 Windows 版となります。
- フォントは文字化けを防ぐため以下をご使用ください。
日本語：MS・MSP ゴシック、MS・MSP 明朝
英 語：Arial、Arial Black、Century、Century Gothic、Times New Roman
- 液晶プロジェクトの解像度は XGA サイズ (1024 × 768 ピクセル／4：3) です。
- ファイル名は「演題番号(半角)」+「発表者氏名」としてください。(例：01-橋詰 直樹)
- 発表者ツールは使用できません。
- 発表データ作成後、作成した PC 以外の PC で正常に動作するかチェックしてください。
- お預かりしたデータは大会終了後、運営事務局が責任をもって削除いたします。

◆ご自身の PC を持参の場合◆

- Windows、Macintosh とも受付可能です。会場内の PC オペレーター席までお持ちください。
- AC アダプターもご持参ください。
- ご自身の PC の外部モニターの出力端子の形状を必ず確認し、必要な場合は接続用の外部出力変換アダプターを必ずご持参ください。事務局でご用意するのは、HDMI に対応する端子のみとなります。
- データ内に動画 (PowerPoint のアニメーション機能は除く) が含まれている場合は、ご自身の PC をご持参ください。
- 予め、スクリーンセーバー、省電力設定、起動時のパスワード設定は、事前に解除しておいてください。
- 念の為、バックアップデータを保存した USB フラッシュメモリーをご持参ください。

オンラインでの発表

オンライン発表を希望される方は2月9日(水)までに事務局へご連絡ください。

- 事前の接続チェックを希望される方は、2月18日(金)14:00～15:00でテスト上映時間を設定しておりますので、可能な限りこのお時間にてご参加ください。
- 接続チェックについての Zoom URL は事務局からお知らせいたします。
- 大会当日にご使用になる PC をご用意の上、ご参加ください。
- 通信環境は有線 LAN を強く推奨いたします。
- 大会当日は、発表データの投影後にライブで質疑応答がございますので、忘れずにご参加ください。

座長・指定討論者の皆様

- セッション開始前までに会場にお入りください。
- 進行は座長に一任します。終了時間は厳守してください。

日 程 表

09:00～09:05	開会のあいさつ	会長：漆原 直人（静岡県立こども病院 小児外科）
09:05～09:45	一般演題1 （5題）	座 長：藤村 匠（国立病院機構埼玉病院 小児外科） 指定討論者：小池 勇樹（三重大学 消化管・小児外科）
09:45～10:25	一般演題2 （5題）	座 長：武藤 充（鹿児島大学 小児外科） 指定討論者：金森 豊（国立成育医療研究センター 外科）
10:25～10:30	休 憩	
10:30～11:00	スポンサードセミナー1	共催：日本アッシュ株式会社 司 会：川原 央好（ならまちリハビリテーション病院） 食道インピーダンス pH 検査をして良かったこと：我々の経験からお伝えしたいこと 講 師：深堀 優（久留米大学 小児外科）
11:00～12:10	要望演題1 [食道インピーダンス pH モニタリングが教えてくれたこと] （7題）	座 長：下野 隆一（香川大学 小児外科） 指定討論者：深堀 優（久留米大学 小児外科）
12:10～12:15	休 憩	
12:15～13:05	ランチョンセミナー	共催：株式会社アムコ 司 会：奥山 克己（静岡県立こども病院 麻酔科） 小児の鎮静時における気道管理について — 麻酔科医が小児科医・小児外科医に伝えたい、コツと急所 — 講 師：宮津 光範（あいち小児保健医療総合センター 麻酔科）
13:05～13:35	施設代表者会議	
13:35～13:40	休 憩	
13:40～14:10	スポンサードセミナー2	共催：コヴィディエンジャパン株式会社 司 会：井上 幹大（藤田医科大学 小児外科） カプセル内視鏡って便利ですよ！ 講 師：金井 理紗（静岡県立こども病院 小児外科）
14:10～14:50	要望演題2-1 [消化管機能障害に対する手術とその功罪] （4題）	座 長：斎藤 武（千葉県こども病院 小児外科） 指定討論者：加治 建（久留米大学 小児外科）
14:50～15:40	要望演題2-2 [消化管機能障害に対する手術とその功罪] （5題）	座 長：新開 真人（神奈川県立こども医療センター 外科） 指定討論者：田附 裕子（大阪大学 小児外科）
15:40～15:50	休 憩	
15:50～16:20	スポンサードセミナー3	共催：EA ファーマ株式会社 司 会：漆原 直人（静岡県立こども病院 小児外科） 便秘治療新世代 ～便秘の害と新規下剤5種を用いた治療アルゴリズム 講 師：三枝 純一（三枝クリニック・肛門科）
16:20～17:00	要望演題3 [最近の便秘治療] （4題）	座 長：高橋 俊明（聖隷浜松病院 小児外科） 指定討論者：友政 剛（パルこどもクリニック）
17:00～17:05	次期会長挨拶	金森 豊（国立成育医療研究センター 外科）
17:05～17:10	閉会のあいさつ	会長：漆原 直人（静岡県立こども病院 小児外科）

プログラム

開会のあいさつ 09:00～09:05

会長：漆原 直人（静岡県立こども病院 小児外科）

一般演題1 09:05～09:45

（発表5分 討論3分）

座 長：藤村 匠（国立病院機構埼玉病院 小児外科）

指定討論者：小池 勇樹（三重大学 消化管・小児外科）

01 Farrell * Valve バッグによる胃内減圧にて腸管ガス貯留改善を認めた重症心身障害者の1例

橋詰 直樹 （国立研究開発法人 国立成育医療研究センター）

02 嘔気に伴う腹部膨満と腹痛に対し漢方投薬治療が有効であった1例

渡邊 俊介 （藤田医科大学 小児外科）

03 絞扼性腸閉塞を繰り返す重症心身障害児に対し胃離断術が有効であった1例

安井 良僚 （金沢医科大学 小児外科）

04 長期静脈栄養に関連した肝障害に対し経口ω3系脂肪酸製剤が奏功した1例

渡邊 峻 （獨協医科大学 第一外科）

05 進行性の腸管機能不全に陥っている超低出生体重児の一例

赤羽 洋祐 （聖隷浜松病院 総合周産期母子医療センター 新生児科）

一般演題2 09:45～10:25

（発表5分 討論3分）

座 長：武藤 充（鹿児島大学 小児外科）

指定討論者：金森 豊（国立成育医療研究センター 外科）

06 HE 染色における Palisading-like pattern は Immaturity of Ganglia の病理学的診断に有用である

吉丸 耕一郎 （九州大学病院 小児外科・成育外科・小腸移植外科）

07 長期生存中の Hirschsprung 病類縁疾患の3例

大山 慧 （聖マリアンナ医科大学 小児外科）

08 結腸に巨大便塊貯留を認め、管理に難渋している小児慢性特発性偽性腸閉塞の1例

城崎 浩司 （慶應義塾大学 医学部 外科学教室（小児））

09 小腸・大腸の多発狭窄のため、小腸・大腸亜全摘術を実施した一例

松林 正 （聖隷浜松病院 小児科）

10 高位・中間位鎖肛術後の排便機能に対するバイオフィードバック療法の有効性

野村 明芳 （静岡県立こども病院 小児外科）

休憩 10:25～10:30

スポンサードセミナー1 10:30～11:00

共催：日本アッシュ株式会社

司 会：川原 央好(ならまちリハビリテーション病院)

食道インピーダンス pH 検査をして良かったこと： 我々の経験からお伝えしたいこと

深堀 優(久留米大学 小児外科)

要望演題1 11:00～12:10

(発表7分 討論3分)

座 長：下野 隆一(香川大学 小児外科)

指定討論者：深堀 優(久留米大学 小児外科)

[食道インピーダンス pH モニタリングが教えてくれたこと]

11 食道インピーダンス -pH (MII-pH) モニタリングのこれまでと将来像

田中 彩 (香川大学 小児外科)

12 食道インピーダンス pH モニタリングが教えてくれたこととは？

小児における嘔気：有病率と胃食道逆流症の関連について

升井 大介 (久留米大学 外科学講座 小児外科部門)

13 小児食道疾患での食道インピーダンス pH モニタリングで waveform pattern を観察することの重要性 ～疾患毎の特徴的な波形について～

升井 大介 (久留米大学 外科学講座 小児外科部門)

14 食道インピーダンス pH モニタリングによる新生児・乳児無呼吸発作と 胃食道逆流との関連

尾山 貴徳 (広島市立広島市民病院 小児外科)

15 小児食道 MII-pH 検査における近位逆流の意義

佐永田 友季子(千葉県こども病院 小児外科)

16 新生児期から有意な胃食道逆流を認めた1症例の検討

菊地 健太 (獨協医科大学埼玉医療センター 小児外科)

17 食道インピーダンス pH モニタリング検査にて診断した supragastric belching の小児

長柄 俊佑 (高山赤十字病院 小児科)

休憩 12:10～12:15

小児の鎮静時における気道管理について —麻酔科医が小児科医・小児外科医に伝えたい、コツと急所—

宮津 光範（あいち小児保健医療総合センター 麻酔科）

施設代表者会議 13:05～13:35

休 憩 13:35～13:40

スポンサードセミナー2 13:40～14:10

共催：コヴィディエンジャパン株式会社

司 会：井上 幹大（藤田医科大学 小児外科）

カプセル内視鏡って便利ですよ！

金井 理紗（静岡県立こども病院 小児外科）

要望演題2-1 14:10～14:50

（発表7分 討論3分）

座 長：斎藤 武（千葉県こども病院 小児外科）

指定討論者：加治 建（久留米大学 小児外科）

〔消化管機能障害に対する手術とその功罪〕

18 遠隔期に食道拡張術を必要とした噴門形成術後の2例

植松 綾乃 （兵庫県立こども病院）

19 吞気症を伴う胃軸捻転に対する胃固定と胃瘻造設の功罪

川見 明央 （神奈川県立こども医療センター 外科）

20 プロテオーム解析を用いた腸液再注入法の意義に関する研究

柿原 知 （東京大学大学院 医学系研究科 生殖・発達・加齢医学専攻 小児外科学講座）

21 Hirschsprung 病に対する直腸後壁完全切除 pull-through と 術後難治性腸炎の発症率の検討

武田 昌寛 （順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児外科）

座 長 : 新開 真人(神奈川県立こども医療センター 外科)
指定討論者: 田附 裕子(大阪大学 小児外科))

[消化管機能障害に対する手術とその功罪]

- 22** 当院で施行している isolated hypoganglionosis に対する外科手術の功罪
金森 豊 (国立成育医療研究センター外科)
- 23** 現在フォロー中の isolated hypoganglionosis 2例に感じる患児 QOL 維持の難しさ
武藤 充 (鹿児島大学学術研究院 医歯学域医学系 小児外科学分野)
- 24** 空腸ストーマからの経腸栄養強化により良好な成長を得ている MMIHS の1例
中村 恵美 (宮城県立こども病院 外科)
- 25** ダブルストーマによる不全腸管活用の試みと功罪
臼井 秀仁 (神奈川県立こども医療センター 外科)
- 26** 腸閉塞に対して狭窄解除術、および人工肛門の位置変更を施行した
Hypoganglionosis の患児の一例
吉田 真之 (大阪大学 医学部 外科学講座小児成育外科学)

休 憩 15:40～15:50

司 会: 漆原 直人(静岡県立こども病院 小児外科)

便秘治療新世代
～便秘の害と新規下剤5種を用いた治療アルゴリズム

三枝 純一(三枝クリニック・肛門科)

座 長 : 高橋 俊明(聖隷浜松病院 小児外科)
指定討論者: 友政 剛(パルこどもクリニック)

[最近の便秘治療]

- 27** 小児外科外来におけるポリエチレングリコール製剤の有用性
薄井 佳子 (自治医科大学 とちぎ子ども医療センター 小児外科)

- 28** 遺糞症または便塞栓を伴う難治性便秘に対するガストログラフィン注腸療法の有用性
仲谷 健吾 (新潟市民病院 小児外科)
- 29** 小児慢性便秘に対する内肛門括約筋ボツリヌス毒素注入療法
久山 寿子 (川崎医科大学 小児外科)
- 30** 排泄機能障害を有する小児に対する排泄リハビリテーションにおける
理学療法士の取り組み
山本 広絵 (静岡県立こども病院 リハビリテーション室)

次期会長挨拶 17:00～17:05

次期会長：金森 豊(国立成育医療研究センター 外科)

閉会のあいさつ 17:05～17:10

会長：漆原 直人(静岡県立こども病院 小児外科)

スポンサードセミナー

スポンサードセミナー 1

共催：日本アッシュ株式会社

司会：川原 央好（ならまちリハビリテーション病院）

食道インピーダンス pH 検査をして良かったこと：
我々の経験からお伝えしたいこと

深堀 優（久留米大学 小児外科）

スポンサードセミナー 2

共催：コヴィディエンジャパン株式会社

司会：井上 幹大（藤田医科大学 小児外科）

カプセル内視鏡って便利ですよ！

金井 理紗（静岡県立こども病院 小児外科）

スポンサードセミナー 3

共催：EA ファーマ株式会社

司会：漆原 直人（静岡県立こども病院 小児外科）

便秘治療新世代～便秘の害と新規下剤5種を用いた治療アルゴリズム

三枝 純一（三枝クリニック・肛門科）

食道インピーダンス pH 検査をして良かったこと： 我々の経験からお伝えしたいこと

深堀 優

久留米大学医学部 外科学講座 小児外科部門

小児への食道インピーダンス pH 検査 (MII-pH) に関する臨床研究が、本研究会で初めて報告されて10年余りが経過した。その間に、国内の小児施設から MII-pH に関する研究報告が右肩上がりが増加し、2015年には、MII-pH の検査方法や解析法を施設間で標準化を行う目的で本研究会内にワーキンググループが結成され、2017年には MII-pH プロトコル試案の正式な作成に至った。このように、国内において、小児 GERD に MII-pH を施行する環境は徐々に整ってきたかに思えるが、現状は MII-pH の経験を有する一部の施設で主に施行されているのみで、MII-pH が国内で広く普及しているとは言い難い。欧米からは2018年に最新の小児 GERD に関する診療ガイドラインが発表され、その中で、MII-pH は GERD の診断的検査の第一選択として既に推奨されている。一方、国内に目を向けると、2006年に本研究会において、小児胃食道逆流症診断治療指針が作成され以降、MII-pH が含まれた診療ガイドラインの改訂は行われておらず、この辺も普及に影響しているのかも知れない。

MII-pH を pH モニタリングの代わりに行う利点として、酸逆流に加え、非酸逆流、上部食道に到達する逆流、ガス逆流などが同定出来るというようなことは、本研究会に参加されている先生方は既にご存じであろう。MII-pH を行うことで、pH モニタリングと比較して得られる情報量が多くなり、GERD に関する詳細な解析が可能になるが、反対に、その情報をどのように解釈すればよいのか迷われる先生も多いのではないだろうか。特に、MII-pH の目視解析の煩雑性は、今も普及が広がらない大きなハードルである。

本セミナーでは、MII-pH を行うことで、pH モニタリングと比較して、実際どのような利点があるのか、得られたデータの解釈の仕方、実臨床での具体的な活用法などについて、我々の10年余りの経験症例などを提示しながら解説する。また、最近の小児への MII-pH に関する動向に加え、我々の MII-pH に関する新しい取り組みなどについても紹介していきたい。

一般演題

01

Farrell* Valve バッグによる 胃内減圧にて腸管ガス貯留改善を認めた 重症心身障害者の1例

○橋詰 直樹、米田 光宏、渡辺 栄一郎、古金 遼也、
小林 完、森 禎三郎、狩野 元宏、高橋 正貴、
藤野 明浩、金森 豊

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

重症心身障害者は時に空気嚥下による腹部膨満から、腹痛や嘔気、嘔吐、胃食道逆流症、腸管拡張に伴ったイレウスを来す場合がある。我々は Farrell* Valve バッグを使用し、胃内減圧にて腸管ガス貯留改善を認めた重症心身障害者の1例を経験した。症例は24歳の女性、Cornelia de Lange 症候群にて4歳時に噴門形成胃瘻造設術、16歳時に気管切開術を行っていた。21歳時に盲腸軸捻転にて解除術を施行した。今回、嘔気、腹部膨満を主訴に救急外来を受診し、盲腸軸捻転の再発を認め解除術を施行した。術後も胃拡張、腹部膨満、嘔吐による誤嚥性肺炎を認め、長期のICU管理を余儀なくされた。そのため経腸栄養時に胃内持続減圧が保てる Farrell* Valve バッグを使用した。胃内が十分に減圧され、腹部症状が緩和された。術後4か月が経過するが、患者の腹部膨満は消失し、家族の満足度も高かった。腸管ガス貯留を来たす場合、Farrell* Valve バッグの使用は有効な方法であると考えられた。

02

嘔気に伴う腹部膨満と腹痛に対し 漢方投薬治療が有効であった1例

○渡邊 俊介

藤田医科大学 小児外科

嘔気に伴う腹部膨満は機能性ディスペプシアの症状の一つであるが治療に難渋することが多い。今回我々は精神発達遅滞のない15歳の症例で漢方薬による治療が有効であったため報告する。当科紹介3か月前位ら嘔気と、午後に腹部膨満感と腹痛があるため近医受診した。近医でガスマチン、ファモチジン処方されるも改善なく精査目的で当院小児科紹介となった。血液生化学検査や腹部超音波検査では明らかな異常は指摘されず、消化管運動改善目的にセレキノン投与となった。投与開始後も症状改善なく器質的疾患除外目的で小児外科紹介となった。上部消化管造影検査では器質的疾患を示唆する所見は認めなかった。漢方治療を希望されたため、身体所見、問診から半夏厚朴湯、六君子湯を投与した。投与開始3週間後には腹部膨満感は改善した。しかし、まだ若干嘔気があるとのことで半夏瀉心湯へ変更し現在外来経過観察中である。

03

絞扼性腸閉塞を繰り返す 重症心身障害児に対し胃離断術が 有効であった1例

○安井 良僚、中村 清邦、廣谷 太一、田村 亮、
岡島 英明

金沢医科大学 小児外科

症例は15歳女性。脳性麻痺、症候性てんかんによる重度運動神経発達障害を認め、気管切開および胃瘻造設後療養施設入所中である。呑気症と高度側彎により慢性的な腸管拡張を来し、胃瘻や経鼻胃管による減圧では不十分で、しばしば長期絶食やイレウスチューブ挿入を要した。しかし TPN のため留置した CV ポート感染を反復した上、捻転や内ヘルニアによる絞扼性腸閉塞を1年間に3回反復した。今後腸閉塞を起こさず長期的な経腸栄養を行うために呑気症による腸管拡張を完全になくす必要があると考え、両親に十分な説明の上、胃をできるだけ口側で完全離断し、幽門側に注入用、噴門側に減圧用の胃瘻を造設する胃離断術を施行した。これにより腸管の拡張は全く見られなくなり、幽門側の胃瘻からの経管栄養が問題なく施行できるようになった。本術式は慎重に適応を判断する必要があるが、長期的な呑気症の管理には比較的低侵襲で有用な術式であると考えられた。

04

長期静脈栄養に関連した肝障害に対し 経口の ω 3系脂肪酸製剤が奏功した1例

○渡邊 峻、松寺 翔太郎、山口 岳史、荻野 恵、
中島 政信、森田 信司、中村 隆俊、鈴木 完、
小嶋 一幸

獨協医科大学 第一外科

長期静脈栄養に関連した肝障害を呈した児に対して、近年有用性が報告されている ω 3系脂肪酸を経口で投与し、肝障害の改善を得たため報告する。

早期破水のため22週6日、535gで出生した女児。日齢12に胎便関連性イレウスおよびメッケル憩室穿孔に対し、トライツ靱帯から20 cmと95 cmにそれぞれ人工肛門を造設した(小腸全長105 cm)。体重増加を得て、6か月時に口側、9か月時に肛門側の人工肛門を閉鎖したが、肝障害が遷延した。

10か月時に直接ビリルビン2.8 mg/dlでロトリガ[®]の経口投与を開始した。処方開始11日目からビリルビン値は改善傾向となり、現在生後12か月で、直接ビリルビン0.2 mg/dlまで低下している。また、凝固機能不全のため毎週 FFP の投与を要していたが、これも不要となっている。

本邦では経静脈 ω 3系脂肪酸製剤は薬事承認を得ていない。本症例のように腸管からの吸収が得られる場合は ω 3系脂肪酸の経口薬も肝障害改善に有用である。

日本小児消化管機能研究会 会則

- 第1条 本会は日本小児消化管機能研究会と称する。
- 第2条 本会は小児の消化管機能、主として運動機能に関する基礎的臨床的研究を行うことを目的とし、年に1回の学術集会を開催する。
- 第3条 本会は施設会員をもって構成する。施設会員については別に定める。
- 第4条 本会は以下の役員をおく。
会長、幹事若干名、監事2名、名誉幹事若干名。
- 第5条 会長は幹事会の議を経て選出され、本会を統率し、学術集会を主催する。
任期は学術集会の翌日より次期学術集会の終了までとする。
- 第6条 幹事は施設代表者の中から推薦によって選出され、幹事会を組織して会長を補佐し、本会の維持発展に努める。任期3年とし、再任を妨げない。
- 第7条 監事は施設代表者の中から推薦によって選出され、本会の会計その他を監査する。
任期は3年とし、再任を妨げない。
- 第8条 名誉幹事については別に定める。
- 第9条 幹事会は学術集会の前日に会長が招集してその議長となる。
1) 幹事会においては当該年度の会計報告、次期会長の決定他、本会運営上の重要案件が討論される。
2) 幹事会は幹事総数の2/3以上(委任状を含む)の出席がなければ、選出及び議決を行うことができない。選出及び議決は出席幹事の過半数をもって成立するものとする。
3) 幹事会の議事録は、会長が作成、保管し、次期会長へ受け継がれる。なお、議事録は各幹事に配布されねばならない。
- 第10条 施設代表者会議は学術集会の当日、会長が主催し、幹事会での決定事項について報告する。
- 第11条 1) 本会に事務局を設置し、事務局長1名を定める。
2) 事務局に関しては別に定める研究会内規により業務等を規定する。
3) 本会則の改正は幹事会の議決を要する。
- 第12条 本会の会計は施設会費その他をもって充てる。
- 付則1 本会則は平成1年2月17日より発効する。
- 付則2 一部改正(平成2年2月17日)
- 付則3 一部改正(平成4年2月14日)
- 付則4 一部改正(平成15年2月14日)

日本小児消化管機能研究会 内規

1. 会長に関する内規

- 1) 会長は学術集会の案内を幹事、施設代表者、事務局長、前年度学術集会参加者ならび新たに加入を希望する施設代表者に郵送するものとする。
- 2) 学術集会に関する立案ならびに施行方法等は会長に一任する。
- 3) 会長は学術集会にて発表された演説抄録(400字以内で図表を含まない)を集め、一括整理して事務局長に送付する。

2. 事務局は当分の間、慶應義塾大学医学部外科内に設置する。

3. 事務局長に関する内規

- 1) 事務局長は、幹事、施設代表者および会員名簿を作製し、3年毎にそれを更新する。
- 2) 学術集会の予告を小児外科関連雑誌に投稿する。
- 3) 事務局長は幹事会において会計報告を行い了承を得るものとする。
会計年度は、毎年1月1日より12月31日迄とし、必要に応じ次年度予算案を作成することがある。
- 4) 会長より送付された学術集会演説抄録を改めて一括整理し、日本小児外科学会誌に投稿する。
- 5) 別冊は加入施設へ配布し、残余を保管する。
- 6) 事務局長はその他幹事会の円滑な進行に必要な事務手続きを施行する。
- 7) 事務局長は必要に応じて事務局長補佐を1名指名することができる。
- 8) 事務局長補佐は必要に応じ幹事会に出席し、事業局長の業務を補佐することができる。

4. 施設会員に関する内規

- 1) 本会の目的に賛同して、入会の意志を事務局に届け、幹事会で承認された施設を施設会員とする。
- 2) 施設会費は年間5,000円とする。
- 3) 2年間施設会費未納の施設は退会と認める。
- 4) 施設会員は施設代表者1名を施設代表者会議に出席させる事ができる。

5. 名誉幹事に関する内規

名誉幹事は、幹事ならびに監事の中から、特に本会の維持、発展に貢献のあったものに対し、幹事会の承認を経て認定されるものとする。

第51回日本小児消化管機能研究会
プログラム・抄録集

会 長： 漆原 直人

事務局： 静岡県立こども病院 小児外科
担当：三宅 啓
〒162-8640 静岡県静岡市葵区漆山860
TEL：054-247-6251 FAX：054-247-6259
E-mail：ch-surgery@i.shizuoka-pho.jp

出 版： 株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>

第51回日本小児消化管機能研究会事務局

静岡県立こども病院 小児外科

担当：三宅 啓

〒420-8660 静岡県静岡市葵区漆山860

TEL 054-247-6251 FAX 054-247-6259

E-mail: ch-surgery@i.shizuoka-pho.jp